

## 「気になる子ども」への寄り添い方



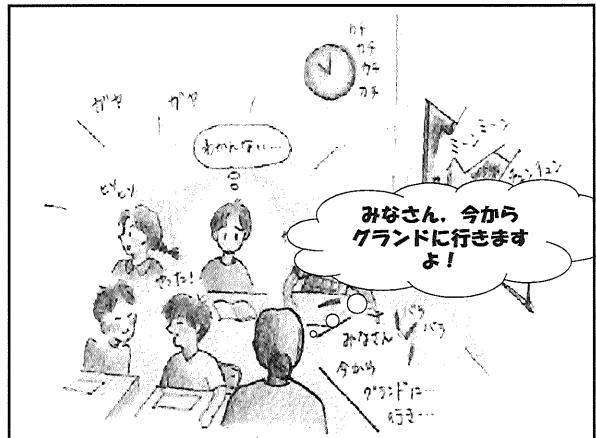
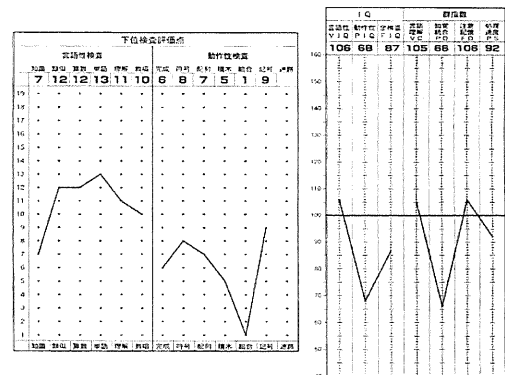
米 衛 政 光

## 気になる子どもとは

- 通常学級に約6%いる、LD(学習障がい)・ADHD(注意欠陥多動性障がい)・高機能自閉症等の子どもたち
- スピルバーグ氏の場合
- 黒柳徹子さんの場合
- さかなくんの場合

## LD (学習障害) とは Learning Disabilities

学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を示すものである。学習障害は、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や環境的な要因が直接的な原因となるものではない。



### 「読む」ことの困難さ

あるあさめをさますと/えるふがしんで  
いたよるのあいだにしんだんだぼくた  
ちはえるふをにわにうめたみんなない  
てかたをだきあつたにいさんやいもう  
ともえるふがすきだったでもすきって  
いってやらなかったぼくだってかなし  
くてたまらなかつたけどいくらかきも  
ちがらくだつただってまいぼんえるふ  
にずうっとだいすきだよって/いって/  
やっていたからね/

### LDの支援のポイント

その子どもの認知特性や学習スタイルを配慮した指導を加えることが有効

- ・ 指示の出し方の工夫
- ・ 読むときの支援
- ・ 書くときの支援
- ・ 座席の位置の工夫
- ・ 手順やルールの表示の工夫 等

### ADHD（注意欠陥／多動性障害）とは Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder

ADHDとは、年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び／又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。また、7歳以前に現れ、その状態が継続し、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。



### 不注意



- 学習で細かいところまで注意を払わなかったり不注意な間違いをする。
- 学習や遊びで注意を集中し続けることが難しい。
- 面と向かって話し掛けているのに聞いていないようにみえる。
- 指示に従えず、また仕事を最後までやり遂げない。
- 学習や活動を順序立てて行うことが難しい。
- 集中して努力を続けなければならない学習や宿題を避ける。
- 学習や活動に必要なものをなくしてしまう。
- 気が散りやすい。
- 日々の活動で忘れっぽい。

### 多動性



- 手足をそわそわ動かしたり、着席していても、もじもじしたりする。
- 授業中や座っているべき時に席を離れてしまう。
- きちんとしておかなければならない時に、過度に走り回ったり、よじ登ったりする。
- 遊びや活動におとなしく参加することが難しい。
- じっとしていない。または駆り立てられるように活動する。
- 過度にしゃべる。

## 衝動性

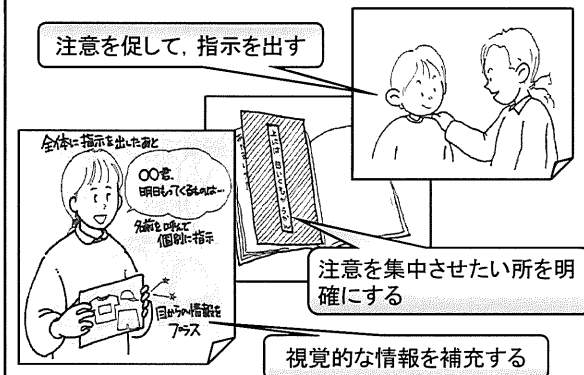


- 質問が終わらないうちに出し抜けに答えてしまう。
- 順番を待つのが難しい。
- 他の人がしていることをさえぎったり、じゃましたりする。

## ADHDの支援のポイント

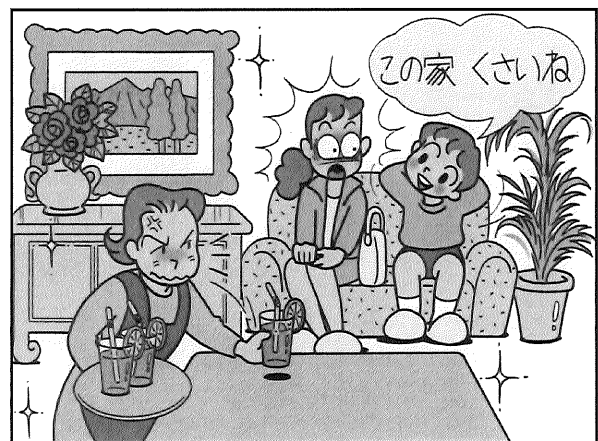
- 注意力への対処例
  - ・ 注意が散漫にならないように邪魔な物は机や教室から除き、声のかけやすい席を配慮する
  - ・ 単純明快で簡潔な指示を心がける
- 衝動性への対処例
  - ・ 行動のルールを掲示して、守れたときは評価する
- 多動性への対処例
  - ・ 多動性は無理に抑えようとせず約束の中で動ける場も作り、自己コントロール力を高める

## 教育的支援の実際



## 高機能自閉症とは

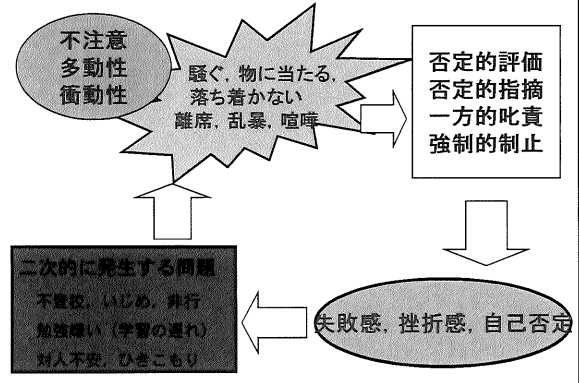
高機能自閉症とは、3歳位までに現れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないものをいう。また、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。



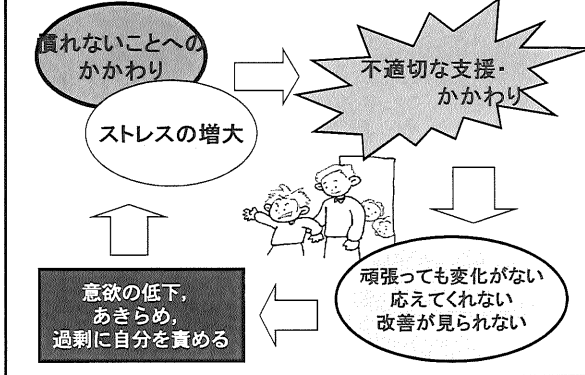
## 高機能自閉症の支援のポイント

- 対人関係や社会性のスキルの向上  
小さな頃から人と付き合うときのコツや注意すべき言動を繰り返し具体的に教える
- 本人の理解できる言葉で会話する  
誤解なく伝わるような単語を使い、文を構成して会話する
- 視覚的な情報提示を活用する  
物事の関係性や抽象的な概念の説明には、図や絵を併用する
- 心理的な安定の得られる場所の確保

## 二次障害の発生と悪循環(ADHDの子どもの例)



## 支援する側(指導員・保護者)の悪循環



## 寄り添うとは ① 悲しみを深く読み取る

<高校を中退させられた高機能自閉症のこうきさんの場合>

- 高2になって、初めて女の子を好きになり、付きまとって暴力をふるってしまう。
- 高校からは自主退学を求められる。私の「どうしてそんなことをしたの？」の問いかけに、相談の場から逃避。

異性を好きになることが許されない悲しみの共感こそ

## 寄り添うとは ② 共感的自己肯定感が持てるように

<自分を傷つける発達障害の淳さんの場合>

- 思春期を迎えて、他から自分がどう評価されているのかいっそう敏感になって、自傷や母親への暴力の繰り返し

- 他からの評価を感じさせない対応の工夫を
- 競争に勝っても「競争的自己肯定感」ではなく、何もできなくてもそこにいてよいと感じられる「共感的自己肯定感」をもてるように

## 寄り添うとは ③ 「弱さ」に手を当て、「強み」を伸ばす

- 「弱さ」に手を当ててくれる人が一人でもいてくれると、発達障がいの子どもは、自分の持っている力を存分に発揮して活躍できる。

ex. 著名人の場合

- 昨年12月、国会が世界で141番目に批准した「障害者権利条約」の目指す世界は、「インクルージョン(包容)」の考え方

## 子どもの「抵抗」をかいくぐるか かわり方

「間」のあるはたらきかけや選択的働きかけをして、「決定の主人公」にしていく。

- 「立ち直るまで待っているからね」 (間)
- 「～もうすぐ～するからね」 (予告)
- 「～しようか」 (誘いかけ)
- 「AとBのどちらにするの？」 (選択)

## 「折り合う力」を育てる かかわり方

自己復元力・自制心をこそ育てる。

- 「～したいんだね。だけれども～しようか。」  
(受け止め→提案)
- 「～してから～しようか」  
(自制への誘い)

## 「その気にさせる」かかわり方

「間」のあるはたらきかけや選択的働きかけをして、「決定の主人公」にしていく。

- 「～したらいけません」→「～しようか」  
(否定型→肯定型)
- 迫真性・応答性・要求性のある語りかけを
- 過程としての・肯定としての値打ちづけを

## あなたの文末はどれ？

- A: ～して (～しててね ～するよ  
～せんか)
- B: ～しないとだめ(～したらだめよ)
- C: ～しないと～できないよ
- D: ～しよう
- E: ～しようか

## 指導とは

- 「力ずくの指導」や「脅しの指導」は、未熟なやり方。
- 子どもがその気になってもいないのに、すぐ反応させるようなやり方でいいの？



- 指導とは、子どもの内面に介入し、やる気を引き出すように指し導くこと。
- 指導とは、子どもの「そうなれない自分」「そうありたい自分」の間に介入していくこと。

## まなざしと表情とからだによる語りかけ ① 迫真性のある語りかけ

漠然とあれこれ多く語るのではなく、真に迫り、身にかかるように語りかける

- ex1) 飛び出しへの一瞬による制止
- ex2) 抱きかかえて、TVスイッチを切るように促し
- ex3) 後方から包み込むような後押し

まなざしと表情とからだによる語りかけ ②  
応答性のある語りかけ

一方的にしゃべるのではなく、子どもの応答を呼び起こし、反応を見届けながら応答的に語りかける。

ex1) 子どもの一つ一つの行動や気持ちを「〇〇しているね」「〇〇な気持ちだね」と言語化

まなざしと表情とからだによる語りかけ ③  
要求性のある語りかけ

子どもは「そうっていない自分」と「そうありたい自分」の間で揺れている。弱い部分への共感と理解をしながら、「よりよき自分」を要求していくように語りかける。

ex1) しばらく近くから見守る「間」のある働きかけ  
ex2) 子どもに自己決定させる選択的働きかけ  
ex3) 先ずは気持ちの受け止め→誘いかけ

絶えざる値打ちづけ ①  
過程としての評価活動

結果を評価するのではなく、刻々の子どもの表情や発言を拾い、できつつあることをその都度指さして評価していく。

ex1) 食事や着脱場面あるいはその他の学習場面等で子どもの刻々の行動を「〇〇したね」と値打ちづけ

絶えざる値打ちづけ ②  
肯定としての評価活動

起こしている行動を肯定的に評価していく。

ex1) 呼名の場面で、「ハイ」と返事した子どもだけでなく、すべての子どもの反応を肯定的に値打ちづけ  
ex2) 「困った行動」を肯定的に値打ちづけ

絶えざる値打ちづけ ③  
発見としての評価活動

小さな変化や前進を発見して評価していく。

ex1) 日々の子どもの行動の微細な発達的变化の値打ちづけ

絶えざる値打ちづけ ④  
達成感としての評価活動

達成感、成就感を感じられるように評価していく。

ex1) 「一人でできる」「ちよっぴり支えればできる」状況をつくりながら、『できたね!』『やったね!』と値打ちづけ